

北陸農政局管内の農業協同組合における男女共同参画事例

なのはな農業協同組合 JAなのはな

所在地：富山県富山市
組合員数：10,496人
理事数：11人（うち女性2人）
監事数：3人（うち女性0人）
職員数：211人（うち女性85人）



代表理事組合長 たにい えつこ 谷井悦子さん

前身農協に入組以来、長く地域農業に尽力し、JAなのはなを退職。

JAなのはな理事会及び女性部、JA富山県女性組織協議会の役員を歴任。

令和4年2月に臨時理事会で組合長に就任の後、同年5月通常総代会で再任。



○組合長就任の経緯

- ・JA職員時代の仕事に対する姿勢や女性部の活動を通してJAに対し意見や提案していたことが評価されたと思う。
- ・職員時代から頼まれたら断らないスタンスで、理事会から組合長の打診があり引き受けた。慣れないことも多いが、応援してくれる仲間がいるから大丈夫と、前向きに取り組んでいる。

○組合長になって感じたこと

- ・理事として質問する側から組合長として答える側になり、その立場にならなければわからないことがある、と実感した。
- ・理事会の雰囲気も変わり新しい意見が出たりするが、女性の数が少なく意見が届かないこともある。まずは、女性部の活動からJA組織を知ってもらい、女性理事を増やしていきたい。
- ・就任直後は女性組合長であることをアピールするような目立つ服装をしていたが、周囲も女性組合長に慣れてきて、だんだんと肩の力がぬけて、落ち着いてきた。
- ・管内の地域農業を支えている家族経営農家に目を向けた支援をしていきたい。例えば、水稻だけに頼りすぎずに、副業的に収入が得られたら、耕作放棄地も減るかもしれない。

○女性の社会参画について

- ・社会参画に男女の性別は関係ない。一人一人の長所を見つけて伸ばすための経験を積ませ、適材適所で働くことが大事。
- ・当時の上司から「仕事は段取り八分」と言われ、時間の使い方を工夫し、苦労したが仕事と家庭を両立させてきた。
- ・JAなのはなは、採用職員の半数が女性の傾向。今は女性管理職は3名しかいないが、管理職のうち1割を女性から登用したいと考えている。

女性が中心となって農業を引っ張る時代が来る。
地域の食、農業を守っていくために、
一歩踏み出す勇気をもってほしい。



(中央) 谷井組合長